

最先端の研究と全人的医療により
社会へ世界へ貢献したい



金沢大学医薬保健研究域医学系
消化器内科学 教授

やました たろう
山下 太郎氏

1995年 金沢大学医学部卒業
1998年 東京大学医学部分子予防医学教室
協力研究員
2005年 米国国立がん研究所客員研究員

2008年 金沢大学附属病院消化器内科助教
2012年 金沢大学附属病院総合診療部助教
2016年 金沢大学附属病院総合診療部准教授
2022年 金沢大学医薬保健研究域医学系消化器内科教授

金沢大学消化器内科の山下太郎教授は、「Veritas Fortissima」
真実は強し、「真に重要な発見であれば時を経ても消えることはな
い」と信じ、肝臓がん研究に取り組んでいます。医学者かつ指導者
としての思いをお聞きます。

肝臓病学の中核機関の
かじ取り役

金沢大学は、内科、外科、放射線
科、病理の各科で肝臓を専門に臨床
と研究を行っている、日本の肝臓病学
のメッカです。特に消化器内科は、慢
性肝炎、肝硬変、肝臓がんの診療と
研究でトップランナーを任じてきま
した。また、難治性の炎症性腸疾患
に対して専門のセンターを設置し、早
期の消化器がんに対しては低侵襲な
内視鏡治療を積極的に取り入れて
います。

さらに、患者数が増えている膵が
ん、早期診断が難しく、5年生存率
が約8%という高悪性度のがんに
も今後、力を入れていこうと考えて
います。

研究者、医師、
指導者として「一心に」

私自身は肝がんを専門とし、現
在、発がん予測と予防薬の開発に傾
注しています。特に、肝臓がんの発症
リスクを予測できる血液バイオマ
ーカーとして血清ラミニン α 2単鎖に着
目しています。少なくともC型慢性
肝炎治療後の患者さんにおいては、
発がん予測が高確率で可能であるこ
とを確認しました。高リスクの患者
さんに向けた発がん予防の薬剤を開
発中です。具体的には、ある核内受
容体の一つをがん抑制遺伝子として
利用し、これを活性化させるリガン
ドを創製しています。進行がんについ
ては、がん幹細胞を標的とした治療
法を検討しています。

これまで多くの先生にご指導いた
だいたなかで、特に記憶に残る方が3
名おられます。富山県立中央病院で
の研修医時代、ご指導下さった先生
の「人は損得勘定ではなく、理念に
よって動くものだ」という言葉を覚え
ています。東京大学留学中に薫陶を
受けた先生には「臨床では一人二人の
患者を治療するが、基礎研究の成果
は全世界の何千万人を治療する力
を秘めている」という言葉を
いただきました。そして、最
も長くご指導いただいた前
任教授の金子周一先生から
は「常に最先端の研究、医療
技術を用いて重要な医学的
課題に取り組み、臨床、研
究、教育、そして社会、世界
に貢献しなさい」とよく言
われたものです。

教室の理念はこうした言
葉をもとにしています。ま
ず一つは「消化器病学を極め
よう。そして患者、社会に貢
献しよう」を掲げており、毎

朝のカンファランスで提示していま
す。また、高齢化が進む日本では、消
化器病の患者さんの大半が、それ以
外の疾患を抱えています。そこで朝
のカンファランスで、消化器専門医で
ある前に内科医であろう、全人的
な医療を提供しよう、とも話してい
ます。医局員には、高い志を持ち、
日々の臨床、教育、研究に臨んでほし
いと思っています。



画像診断より優れた、肝がん発症を予測できるマーカーを発見！
世界的にも画期的な研究成果